

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370241

研究課題名(和文) 女性教育メディアとしての物語と和歌の言説機能 平安・鎌倉期を中心に

研究課題名(英文) The educational function of the tales and waka poems for women in the Heian and Kamakura era

研究代表者

田淵 旬美子 (TABUCHI, Kumiko)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：80222123

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：平安時代・鎌倉時代の物語と和歌、特に『源氏物語』とその和歌を中心に、女性教育メディアという新たな視点から、その言説機能を検討した。当時において物語は、貴族女性・女房のための教育メディア装置であったと考えられる。それは『源氏物語』の中の語りの方と、『源氏物語』の享受資料における叙述の方法、この両方から推定することができる。あわせて、鎌倉時代の宮廷社会における、ある女房の生涯をたどり、生活と意識とを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：On Japanese classical tales and waka poems in the tales of Heian and Kamakura era, particularly The Tale of Genji, I examined the verbal explanation function from a new viewpoint called the education media for women. It is thought that tales and waka poems were the education media device for noble women in those era.

研究分野：日本古典文学

キーワード：和歌文学 物語文学 日本古典文学 女性教育 女房文学 源氏物語 無名草子 女訓書

1. 研究開始当初の背景

(1)現代では物語文学・和歌文学を研究する場合、文学としての枠組みでとらえて分析・評価する傾向が強いが、平安・鎌倉期の女性にとって、物語は必須の社会的テキストであった。貴族女性たちは、物語の中身によって、人間や社会、自己のあり方について学んだのであり、それが物語の最も重要な機能であった。これは物語文学を読み解く際に前提となる点であるが、従来は閑却されがちであった。特に『源氏物語』は、あまりにも優れた文学であるゆえに、教育メディアとしての側面が見過ごされる傾向にある。

(2)本研究開始以前に田淵が論じたように、『紫式部日記』の消息部分や鎌倉期の『阿仏の文』のような、母が娘に書き与えた教訓的消息の存在がある。さらに田淵が鎌倉期の『無名草子』を検討した結果、『無名草子』は従来言われていた物語評論書というよりも、宮廷女性へ向けた教養書、教訓的・教育的テキストであって、物語を教育書として機能させるための手引き書であり、物語と女性教育とを繋ぐような執筆内容が見られることが明らかとなった。中古から中世にかけて、こうした作品やその断片が少なくないと推定される。

(3)以上をふまえて、『源氏物語』などの物語、物語の作中和歌、享受資料などを再検討し、文学としての表現形成だけではなく、教育メディアとしての言説機能を明らかにすべきであると考えられる。

2. 研究の目的

(1)『源氏物語』などの物語、およびその作中和歌、周辺資料・享受資料などから、平安期から鎌倉期にかけて、女性に対してどのような教育が行われていたか、そこで何か求められていたのか、どのような価値観や意識に基づくものであったか、そしてこれらの意識が物語の構造や和歌にどのように影響を及ぼしていたかということ、その言説機能から明らかにすることを第一の目的とする。そ

れに関連して、当時の宮廷の女性たち、女房たちの意識や宮廷生活の具体相についてもあわせて検討する。

(2)広く言えば、物語が社会的テキストであったことの意味や具体相、そして女性教育メディアとしての役割や実態を可視化し、そしてこのことが文学史に及ぼした目に見えない影響力、その結果としての作品形成のあり方を浮き彫りにしたいと考える。

3. 研究の方法

(1)女性教育メディアという視点から、平安・鎌倉期の物語と和歌、および関連資料・享受資料・女訓書などを広く見渡して、女性教育メディアの機能を示す重要な言説に注目し、その機能を分析・検証する。説話的な記述をもつ作品や女房日記など、物語以外の作品も含めて検討する。これらの検討は、物語と和歌だけに留まらない、女性教育メディアの総体を明視することに繋がる

(2)検証の際には当時の宮廷社会における意識を明らかにしてその地点に戻すことを基本とする。また『無名草子』や女訓書などの享受資料から逆に、平安・鎌倉期の物語やその和歌を照射して、教育メディアとしての言説機能を担っていた部分を可視化する。

4. 研究成果

(1)『源氏物語』の歴大な研究のうち、『源氏物語』中に見える教育メディアとしての言説機能に言及している論もあるが、非常に少ない。けれども『源氏物語』は、それ自体が巨大な教育メディア装置であるとも言える物語である。本研究では『源氏物語』には全編に教育的・講義的・逸脱的な語りがあることを指摘し、これらは女訓書・教育書とも共通するような内容であり、『源氏物語』が教育的テキストであることを明確に浮かび上がらせるものであることを明らかにした。(「評論としての『源氏物語』 逸脱する語り」)

(2)『源氏物語』の和歌を論じている『無名草子』の言説を詳しく分析した。従来は『無

名草子』の和歌の選択は、文学的試みである『物語二百番歌合』などと比較されてきたが、全く異なる性格のものであり、『無名草子』は物語の和歌を、現実の宮廷社会に生きる女性のために、『源氏物語』の和歌を女性教育メディアとして用い、コメント・批判を加え、論じる姿勢があることが明らかとなった。(『無名草子』における『源氏物語』の和歌)

(3) 物語の和歌そのものを、現実と虚構という視点から再検討し、物語の和歌は現実そのままではなく、劇場としての時空における和歌、というような特質をもつことを論じた(「劇場としての物語の和歌」)。この点は、さらに深化させて、色々な観点から今後考えていく必要があると考えられる。

(4) 『無名草子』は女性教育と物語をつなぐような作品であるが、それだけではなく、後半部には、宮廷に実在した歴史上の女性達を論じている説話的部分、すなわち宮廷女性評論がある。この部分の言述内容を分析し、そこには宮廷女房の視点での教育的テキストとしての特質がみられることを明らかにした。(『無名草子』の宮廷女性評論)

(5) 宮廷において実務や教育に携わる女房の生活と意識とがどのようなものであるかを具体的に探るため、定家の娘である民部卿典侍因子の生涯と和歌について、『明月記』などを用いながら、その全体像を明らかにした。また宮内卿や俊成卿女についても論じた。(民部卿典侍因子の一連の研究、および『異端の皇女と女房歌人』)

(6) 女房日記である『とはずがたり』を取り上げ、女三宮と柏木の和歌に注目しながら、『とはずがたり』が種々の操作を加えて『源氏物語』を反転・拡大・展開していること、その『源氏物語』享受の特質を明らかにした(『とはずがたり』の『源氏物語』叙述)。今後さらに『とはずがたり』の『源氏物語』受容と転化については、論じる必要があると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計 6 件)

田淵句美子「『とはずがたり』の『源氏物語』叙述 女三宮の和歌などをめぐって」

『日本文学』65-7 2016年7月 査読有

田淵句美子「評論としての『源氏物語』逸脱する語り」『物語史 形成の力学』

(新時代への源氏学8)所収 2016年5月刊 288-318頁 査読無

田淵句美子「民部卿典侍因子伝記考 『明月記』を中心に」『明月記研究』14

2016年1月 143-155頁 査読無

田淵句美子「『無名草子』における『源氏物語』の和歌」『源氏物語とポエジー』所

収 2015年5月 青簡舎刊 273-298頁 査読無

田淵句美子「劇場としての物語の和歌 序に代えて」『源氏物語とポエジー』所収

2015年5月 青簡舎刊 11-27頁 査読無

田淵句美子「『無名草子』の宮廷女性評論」『中世の随筆 成立・展開と文体』(中世

文学と隣接諸学 10)所収 竹林舎刊 2014年8月 99-119頁 査読無

[学会発表](計 2 件)

田淵句美子「『後堀河院民部卿典侍集』について」2015年6月20日 和歌文学会 日本女子大学

田淵句美子「中世の女房たちと『源氏物語』」国際シンポジウム「詩歌が語る源氏物語」

フランス・パリ・INALCO 2014年3月21・22日

[図書](計 3 件)

寺田澄江・清水婦久子・田淵句美子編『源氏物語とポエジー』青簡舎 2015年5月 403頁

田淵句美子・中世和歌の会『民部卿典侍集 土御門院女房 全釈』(私家集全釈叢書 40)

風間書房 2016年5月 409頁

田淵句美子『異端の皇女と女房歌人 式子内親王たちの新古今集』(角川選書) 角

川学芸出版 2014年2月

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田淵 句美子 (TABUCHI, Kumiko)
早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授
研究者番号：80222123

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()